第六回李登輝学校研修団レポ

李登輝先生の迫力に感動 !

本会青年部 石いし田だ 益貨を



たり、 登輝学校研修団 陣の講義を拝聴するために、第六回李 を感じさせられました。 人の李登輝学校に対する意識の高まり らの参加者もいるということで、 名参加)が台湾を訪問しました。 今回は日本国内のみならず、米国 月三日 李登輝台湾前総統、 から六日までの四 (小川英子団長、 その他講師 日 間 三十 日本 K か わ

【初日・三月三日】

は 館 北 現地参加の人たちと合流した後、 の野外研修地、 チャイナ・エアラインの朝便で台 を訪れました。 台湾の独立建国運動家・鄭南榕烈 桃園国際空港に集合した一同 鄭南榕基金会(紀念会 鄭南榕紀念会館で 最初 は、

> 士が、 ただ息を呑むばかりでした だに生々しい焼け跡を見ながら、 こからくるのか。私は紀念会館内の未 屋がそのままの状態で保存されていま リンをかぶり焼身自決を遂げられた部 でできる、このエネルギーや信念はど 台湾の独立建国のためにここま 国民党に逮捕される寸前 ガソ

ども参加していた中、 圓山大飯店へ向かいました。 出席するために、台湾の高級ホテル・ 友会(黄崑虎総会長)主催の新年会に ーブルがかなりステージに近い所に用 続いて、夕方近くなると、李登輝之 私達研修団 五百人ほ 0

多くにとって、この日初めて李登輝前 私を含め研修団に参加した人たち 0

0

功績を讃えた記念碑や胸像が展示さ

れを象徴する場所と言えます。

速水氏

意されていたことに驚きました

は一月末に発行された「壱週刊」で物 李登輝先生のスピーチは台湾語でした 総統を直接目にした日となりました。 後で聞いたところによると、

(2月20日)

先生

おいしい屋台料理を求めて士林の夜 「夜になると気合が入る」メンバ 説明されていた、とのことでした。 議を醸した記事について、その真意を 、と繰り出して行きました。 この日は圓山大飯店で一泊。

1

部 は

[二日目・三月四日]

は 向上しましたが、 十年間で、台湾のインフラは飛躍的に 水和彦技師でした。日本統治時代の五 した。設計者は台湾総督府鉄道部 修地は「台北機廠」で、日本統治時代 することができました。 「新台北鉄道工廠」と呼ばれていま 二日目。この日も午前中は天気がよ 気持ちよくホテルのロビーを後に 台北機場はまさにそ 第二の野外研 の速や

3月4日



3月4日



鄭清文先生、 3月4日



と、 験談を聞くことができました。 人と同様に扱いだした、 とたんに日 本政府は台湾人を内 という生の

向かうバスに乗ろうとしたところ、 追っかけをしていたことが気になりは 多くの若者は道路の反対側で芸能人の に参加していたのは年配の人が多く、 に(?) と台湾語で挨拶、よく通る声が台北中 原正敬副団長が壇上に招かれて日本語 定運動を応援しているところから、 本会も台湾の自主独立のための憲法制 活動をしている団体を目にしました。 北駅前で「台湾新憲法制定」のための 北故事館」で昼食を摂ってから桃園に 二二八記念館を後にした一行が 轟きました。ただ、この活動 台

みな日本語で館内を案内してください 件を直接経験されたガイドさんが、 うにするための紀念館です。当時の事 牲者を追悼し、その悲劇を忘れないよ

巧

湾人を殺害したあの二・二八事件の犠 でした。国民党が三万人と言われる台 よって倉庫に隠されていたそうです。

一番目

の野外研修地は二二八紀念館

時代は速水技師を尊敬する台湾人に

n

ていましたが、

国民党による白色テ

語りつつも、

日本統治時代の矛盾も指

イドさんは、二・二八事件の悲惨さを ました。私のグループを受け持ったガ

摘していました。台湾人は日本時代も

争がひどくなって兵力が不足してくる

かれ、

一等国民扱いをされていましたが、

戦

しましたが……。

地

えると、センター内において研修生と 講義「台湾の文化・文学を知る」を終 の複雑さを学ぶことができました。 が始まり、 生による一限目一台湾の主体性の追求 介されて入学式が終わると、林明徳先 いただき、李登輝学校のスタッフが紹 就いた郭生玉先生から歓迎の挨拶を 式が始まりました。新しく教頭先生に ックインを済ませると、 ころはもう土砂降りの雨でした。 夕食後、二限目の鄭清文先生による 桃園の渇望学習センターに到着した 台湾人のアイデンティティ すぐさま入学

李登輝学校スタッフによる懇親会が開 酒とツマミとカラオケで初日 黄崑虎先生、 3月5日

ら皆盛り上がっていました。

(三日目・三月五日)

持って国民党の独裁政治と対決してい 求める気持ちは相当に高 に伴う台湾の民主化の軌跡を紹介して についての講義を受けました。 よる「台湾の戦後史と民主化 ブレークをはさんだ後、 たことを思い知らされました。 いました。当時の台湾人の民主政治を 輝先生の八十 Dの観賞。大変感動的な内容で、 義は「台湾民主化への路」というDV 三日目は一日 数年わたる生涯と、 中講義でした。 黄崑虎先生に ζ 皆勇気を 0 ティー 少歩み」 朝 それ 李登 0 講

でいて、原住民にはクリスチャンが多 でいて、原住民にはクリスチャンが多 でいて、原住民にはクリスチャンが多 でいて、原住民にはクリスチャンが多 でいて、原住民にはクリスチャンが多 でいて、原住民にはクリスチャンが多 でいて、原住民にはクリスチャンが多

いことを新たに発見しました。

因で、 Ŕ 後、 推し進められ、 二〇世紀に入り、 述べられました。 うフィクションを持ち込み、これが原 族主義も台頭しました。ところが れに乗って、同時に台湾人としての民 政府はなく、部族社会が中心でした。 日本統治時代まで台湾には政府らしい 数百年前から遡って見ていきました。 湾の歴史を知る」では、台湾の歴史を ィが国民の間で統 \mathcal{H} モンゴル人も皆中華民族だ、とい 国民党が大陸の人もチベット人 現在、 目 の呉密察先生による講義 台湾人のアイデンティ 大正デモクラシー 日 一されていない、 本により近代化 · の流 ح テ 戦 が

と指摘 と羅福全先生による総合座談会。 が切り上がらなければ、 との交易が拡大したことが原因である 麟先生は近年の台湾経済の え込むことはなく、 三日目の最後の講義は、 今後不当に安い 中 ・国経済は伸び 外国 黄天鱗 中国 低迷は中 |投資が冷 [の通貨 黄天 先生

> ける、 変わらない限り台湾は大丈夫だ、 今後も高まっていくので、この傾向 ました。また、台湾人の台湾人意識は が今後一層緊密になる、 するために、 未来像を提 をする識 最近台湾の将 軍事力を伸ばし続ける中 と述べました。 者が多い 示していたのが印 日米同盟と日米台の協力 来に関して悲観的な見方 中 比較的 羅福全 と予測 象的 国と対峙 楽観的な 先 生は、 してい でし が

【四日目・三月六日】

れていました。

ながら先生をお迎えしました。 を讃える台湾語 全員がセキュリティー 李登輝先生が到着される直前に受講者 義が開かれる、 いよいよ李登輝前総統による特別講 前日から練習してきた李登輝先生 最終日を迎えました。 0 歌 呵 チェ 輝 伯 ックを受 を歌

独立か統一かについての不毛な論争にく二つに分けられ、①現在台湾内部でく二つに分けられ、①現在台湾内部で李登輝先生の講義内容の要点は大き



(左) と馬薩道輝先生、 3月5日



3月5日



と羅福全先生、 3月5日 黄天麟先生 (左)



3月5日 迫力満点の李登輝先生、

れない日になりました。 た。この日は私の人生にとって忘れら 家を知 ŋ 十年の 月日が流 れていまし

続いて、「仰げば尊し」を歌い、

全て

よって、

国会で建設的な議論がなされ

なくなっていること、

②日米は未だに

乗り込もうとした時、 うことを再確認できました。 出身地は違えど志は同じなのだ、とい には離れ離れになります。 及び海外から来ているので、二時間後 念写真を撮りました。私達は日本各地 昼食後、 の研修スケジュールを終了しました。 渇望学習センターを後にするバスに 第六期の研修生一同による記 南国とは思えな しかし、

べきだと改めて心に誓いました。

が中心となって、 くなるでしょう。

台湾を応援してい

<

その時、

私達研修生

湾の現状がよく分かりました。

李登輝先生のお話は大変な迫力で、

国政策」を採り続けていることで、 台湾人にとってはた迷惑な「一つの中 台湾問題に十分関心を払っておらず、

で次の台湾の立法委員選挙・総統選挙 いほど風が冷たく、天気も悪く、 激しさの前兆ではないか、と思える まる

大変

誌SAPIOで「李登輝」という政治 感動的でした。十七歳の時に初めて雑 ートル以内に近づくことができ、

0)

輝先生は一人ひとりに修了証を手渡さ

私もこの日初めて先生の半径

メ

答の時間が取れないほどでした。 予定時間を大幅にオーバーし、質疑応 圧倒されました。先生は熱中しすぎて

講義後、

すぐに修業式に入り、

李登

もあり、近い将来無関心ではいられな 界でまだ十分関心をもたれてはいませ る台湾問題は、 ほどでした。日本にも大きな影響があ しかし、選挙が近づいていること 残念ながら、 日本や世

感謝したいと思います。どうもありが 及び台湾の李登輝学校の方々に心から 画し実施してくださった本会の事務局 礼申し上げます。また、この研修を企 た許世楷代表や代表処の方々に深く御 のため官邸で茶話会を開いていただい 最後に、今回も研修出発前に研修生

とうございました。多謝